

国語 第4学年 パンフレットを読もう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：パンフレットを読む目的を決め、見出しや図と文を行き来して中心となる情報をまとめる。紙面の順に全部写さない。C(1)ウの学習として、読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、目的を意識して中心となる語や文を見付け、内容を要約しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまりく児童にはどんな支援をするか。

返し：全ページの情報を同じ長さで写す、図の印象だけで説明する。これに対して、教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。
〔知識及び技能〕(2)イとC(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「知りたいことを短く説明するには、どの見出しと文が必要ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：全ページの情報を同じ長さで写す、図の印象だけで説明する。教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「知りたいことを短く説明するには、どの見出しと文が必要ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

